

# 勝林寺寺報

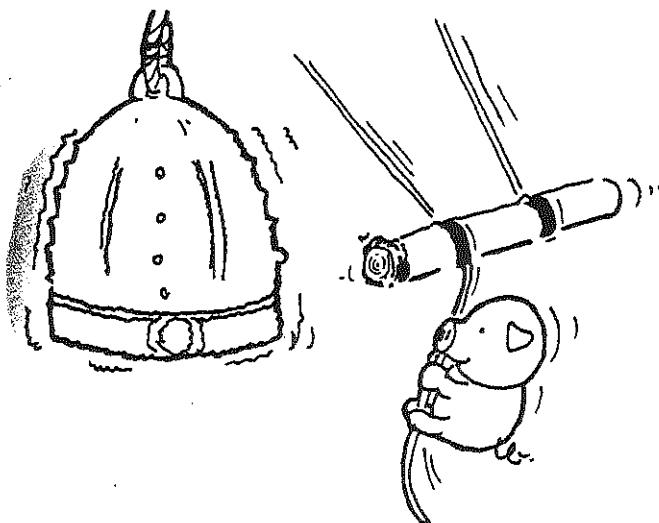


## 「恩」と「つゝ」と

ある中学生の話です。先生が、恩について話をしようと思い、君たちは親の恩ということを知っているかと尋ねました。すると、前列にいた男子学生が、いきおいよく手を挙げました。先生が指名すると、その生徒は立つて、「親のオジンはお父さんで、親のメンはお母さんです」と答えたといいます。生徒本人はおおマジメで答えたわけあります。その中学生にとつては、「親の恩」という言葉を聞いたことがなかつたのでしょうか。現代ではそれほどまでに、恩という考え方方が忘れ去られているようです。

この恩というものの考え方は、ヨーロッパの思想の中にも、中国の思想にも、まつたくないもので、古いインドの仏教の中から生まれたものであります。それはインドの言語でいうと、「クリタジユナ」といいます。その「クリタ」とは、「作（な）されこと」を意味し、「ジユナ」とは、「知る」ということです。だから恩とは、作されたことを知ると「う」と意味します。すなわち、いまはこの眼で見ることはできないけれども、かつてそれが作され、造られたことに気付いて、ありがたしと思う心を「恩」というわけです。

日本語では、その「ことを「おかげ」といいます。おかげとは、もともとは「かけ」のことで、眼に見えないことをいいます。いまは見えないけれども、どこかで苦労してくれた人がいたことに思いをはせ、それに感謝する言葉が「おかげ」とか「おかげさま」です。



(信楽峻磨遺稿法語集より引用)

しかしながら、今日の社会では、そういう見えないものに、心の眼をひらいて、発見し、感得して、それについて「ありがとう」と思う心は、ほとんど失われていったようです。このような心の眼をひらいで、ものを見ていくといふことは、まだその心が柔らかい子どものときに、家庭において教えられ、育てられていくものであります。理屈抜きに、食事の時に手を合わせて拝んでいただくということ、そしてまた、仏壇に向かって合掌するというような、日々のしつけこそが、そういう深い心を育てていくのです。

これから日本の社会にとつては、こういうものの考え方こそが、いちばん大切になつてくると思います。そしてそのことはまた、人間一人ひとりについても、その幸福な人生を気づくために、決して欠くことのできない、もっとも大切なことだらうと思われます。

## ご報告

早速、本山への懇意として進納いたしました。このたび、本山より感謝状をいただきましたので、ご報告いたします。

一年分をお納めいただきました。  
ともに、ご理解ご協力に厚くお礼申し上げます。

一日(木)	奥小谷 報恩講
二日(金)	太田・東里 唐川 報恩講
三日(土)	斎藤清忠宅 七回忌法要
四日(日)	小田 托鉢 報恩講

## 合同役員会

### 感謝状

本山教区 出石組

六日(火)	小田 報恩講
八日(木)	市場 報恩講
九日(金)	野尻・矢根 報恩講
一〇日(土)	湯口孝司宅 忌明法要
一一日(日)	出合 総仏講
一二日(火)	矢根 報恩講
一三四日(水)	暮坂 報恩講
一四日(木)	丸中・片間 報恩講
一五日(木)	東里 総仏講
一六日(金)	百合・桐野・寺坂 報恩講
一七八日(日)	森井由美子宅 三回忌
一九日(月)	山田春彦宅 三回忌
二〇日(火)	鉢山・豊岡 報恩講
二一日(水)	口小谷 報恩講
二三日(木)	口小谷 報恩講
二五日(日)	出石組 連研反省会
二六日(月)	みのりを聞く会

## ご案内

今年も残すところあと一ヶ月となりました。今年の締めくくりと新年のスタートを阿弥陀さまのまえで皆さんとともに迎えましょう。

### お餅つき

二月二十七日(火)午後二時より  
除夜会(じよやえ)

十二月三十一日(土)午後十時半より  
修正会(しゆしようえ)

一月一日(日)午前〇時より  
二七日(火)お餅つき

二月一日(日)午前〇時より  
三一日(土)除夜会

\*仏社の役員さんを中心、「お・も・て・な・し」を用意してお待ちしています。家族お揃いで、お参りください。

## 一二月 勝林寺 予定

一日(木)	奥小谷 報恩講
二日(金)	太田・東里 唐川 報恩講
三日(土)	斎藤清忠宅 七回忌法要
四日(日)	小田 托鉢 報恩講
五日(月)	出石組 連研反省会
六日(火)	みのりを聞く会
七日(水)	お餅つき
八日(木)	大掃除
九日(金)	奥小谷 報恩講
一〇日(土)	十二月三十一日(土)午後十時半より 修正会(しゆしようえ)
一一日(日)	二月二十七日(火)午後二時より 除夜会(じよやえ)
一二日(月)	一月一日(日)午前〇時より 三一日(土)除夜会

